

平成22年度「エコパートナーくまもと」臨時総会 議事録

日 時：平成23年1月17日（月）19：00～21：00

場 所：熊本市役所14階大ホール

参加者：会 員：33名／事務局：10名／合計43名 ※第1号議案の後、会員2名退場

議事経過：(司会) 後藤 浩史 氏〔副会長〕
(議長) 中村 邦博 氏〔会長〕

会長挨拶

→中村会長挨拶

審議事項

○ 臨時総会を行うことになった背景と経緯について

→中村会長から説明があった。

【質疑応答・意見交換】

会 員：第3次環境総合計画とは？

事務局：現在、平成13年度からの10年計画として第2次環境総合計画が運用されており、さまざまな環境目標を掲げる中で、その推進組織としてエコパートナーくまもとを位置づけているが、平成22年度で計画期間が終了するため、来年度からの10年間の計画として第3次環境総合計画の策定を進めているところである。

その特徴としては、環境文化都市という10年後の都市像を描き、水や緑、廃棄物、地球温暖化等の10年間の目標値を設定する中で、その取り組みを市民・事業者・市民活動団体・市のそれぞれの役割の中で進めていこうという計画となっている。

また、計画の推進体制として、市民・事業者・市民活動団体・市を結びつける中間支援組織を推進組織として位置づけて計画を進めていこうと考えている

会 員：中間支援組織とは？また支援とはどういう意味ですか？

事務局：各主体をコーディネート（つなぐ）することで後方から支援する組織を考えている。

会 員：推進組織の役割が中間支援ということであれば、これまでエコパートナーくまもとが時間をかけてやってきたことが何だったのかと思うと悲しい。

役 員：中間支援組織とは、第3次環境総合計画を策定する際にでてきた考えであって、これまでの9年間、推進組織としてのエコパートナーくまもとの役割ではなかったと認識している。

会 員：この文章は誰が作ったのか？また、文章では9つのワーキンググループとあるが、現在6つではないのか？

役 員：この文章は役員会で作成した。ワーキンググループは統廃合があり現在6つだが、昨年度までは9つのワーキンググループだった。

会 員：エコパートナーくまもとは、なぜ今中間支援組織になろうとしているのか？その目的は？

役 員：第3次環境総合計画策定の際に市民の意見を反映させるために設置された市民検討会議の中で、第3次環境総合計画の推進組織のあり方として中間支援組織という考えが出てきた。ワーキンググループ活動を主とする現在のエコパートナーくまもとでは、その役

割に応えることができず、第3次環境総合計画の推進組織に位置づけられるためには中間支援組織を目指す必要がある。

会 員：活動財源を独自に確保しなければならないとあるが、活動する上で財源は大事で、税金を投入してもらわないと何もできないのではないかな？

役 員：この後の議案でエコパートナーくまもとを継続させていくと決定された場合は、新たに組織を作り上げていくことになり、そこで初めて、賛同した人で議論を始める事になるのでこの話は少し待っていただきたい。

○ 「エコパートナーくまもとの今後に関するアンケート」集計結果について

→原副会長から報告があった。

- ・ アンケートの集計結果をうけて、皆様に提示する第1号議案としてまとめた。

【質疑応答・意見交換】

会 員：やはり第3次環境総合計画とは何かわからないので、わかりやすく教えてほしい。

事務局：第3次環境総合計画とは、来年度からの10年間の計画であり、対象地域は熊本市全域となる。

10年後の目指すべき都市像として、「自然環境を大切にす文化」、「歴史的・文化的環境を守り伝える文化」、「環境保全に向けた新しい価値観や暮らし方を創出する文化」の3つを加えて新たな都市の魅力を生み出そうという「未来へつなぐ世界に誇れる環境文化都市」を掲げている。

これまで培われた市民、事業者、市民活動団体、市による協働と参画の中で「環境文化都市」の実現を目指す。

進むべき方向として、「豊かな自然と文化の保全と活用」「環境の変化への対応と適応」「環境負荷の少ない社会の変化に応じた都市づくり」「環境と経済・社会の調和」「環境文化都市を推進するひとづくり・まちづくり」という5つの基本理念を定めている。

第3次環境総合計画は基本的に環境審議会からの助言、市民の意見を反映させるための市民検討会議（エコパートナーくまもとも参加）の中で議論をしてもらっている。その中で推進組織の役割として中間支援というあり方がまとめられた。

会 員：以前策定された「熊本市低炭素都市づくり戦略計画」と第3次環境総合計画の関係はどうなるのか？

事務局：環境総合計画は熊本市の環境分野の総合的・基本的計画であるため、「低炭素都市づくり戦略計画」をはじめとした分野別個別計画の上位計画という位置づけとなる。

会 員：エコパートナーくまもとを再編する場合に、推進組織の役割のみを行う組織にするのではなく、それ以外に独自で活動を展開していくことの方が大事ではないかな？

役 員：再編後の組織の具体的な役割・活動については、これからの議論になるかと思うので、まず来年度から事務局と補助金を独自に確保しなければならない状況で、エコパートナーくまもとの存否についてどうするかを決めないといけない。

会 員：中間支援的役割を担えれば、市と契約することでお金が出るのかな？つまり、ワーキンググループにはお金は出ないと思うが、中間支援組織としてコーディネートすることに対してはお金が出るのかな？

事務局：予算的な問題にもかかるので、はっきりお答えできないが、これまでのような継続的に

補助金を出すという形は難しいと思う。推進組織とは協定という形で関係を作っていきたいと思うが、どういうふうにお金を出していくかは今後の問題として検討していきたい。

会 員：だが、コーディネートするだけの組織は、お金をとることができず難しいと思う。

役 員：今回の議事の進行は頭を悩ませた。まず、エコパートナーくまもとの存続をどうするか決めなければその先の議論に進めない。そこで存続となれば、引き続き組織のあり方について議論していきたい。

会 員：これまでの議論で、エコパートナーくまもとがなぜ存続できないかの説明がなされていないのではないかな。

役 員：市が事務局として参加し、活動に対し補助金を交付していた裏づけとなる第2次環境総合計画が終了するため。(エコパートナーくまもとは第2次計画の推進組織)

会 員：まず現在のエコパにおける行政の役割と市民の役割と、今後どのように行政の役割と市民の役割が変わるのかを認識する必要があるのでは？これまでの説明を聞いたところ、これからは自分達で事務局や活動資金を確保していくことが必要となるということだが、それらが確保できるかどうかの見込みがなければ判断は難しい。

役 員：言われていることは分かる。来年度からは市からの予算・事務局がなくなると考えていた上で、今後の議論の中で組織を継続させていくための知恵をいただきたいと思っている。やれないということであれば、解散ということになる。

役 員：再編した場合の組織の役割、あり方がどうなるのかイメージが描けなければ、継続も解散も判断つかないという雰囲気であるため、役員会で検討してきた組織案を先に示したらどうか？

会 員：もし、エコパートナーくまもとが解散した場合、その後の市としての展開はどうなるのか？

事務局：エコパートナーくまもとの存否に関わらず、中間支援的役割を担う推進組織は必要だと考えているので、そういう役割を担っていただける組織を公募等で捜して位置づけることになる。

会 員：中間支援組織の「支援」という言葉は、いろんな解釈がある。誰から誰への支援かをはっきりする必要があるのではないかな。

－＜ 休 憩 ＞－

○ 第3次環境総合計画の推進体制、推進組織について

→原副会長から説明があった。

※追加資料「イメージ図」P 1－2 参照

【質疑応答・意見交換】

会 員：これから県や市が積極的に市民をサポートして環境問題に対応していかなければならないのに、財政的な問題で予算をきるという考え方がおかしいと思う。

事務局：市としては、財政の問題で縮小しようとは思っていない。財政的な問題ではなく、市民協働の関係をもっと発展させていくために、現在のエコパートナーくまもとの関わりや90万円という補助金のあり方を見直していくということである。

会 員：うまい解決方法が思い浮かばないので、他の自治体でうまくいっている事例を参考にし

ていけばいいのでは？財源がなければ活動ができないということであれば、会員を増やせばいいと思うが、今あまりにも会員が少なく、関心が低いと思う。

会 員：この推進体制の中で、市とエコパートナーくまもとが対等な立場でパートナーシップを構築していくのであれば、市の役割を示してほしい。この図では、エコパートナーくまもとだけの役割だけが示されている。

会 員：市は、市民との協働による取り組みを今後、更に発展させていくということなので、それでいいのではないか。

役 員：あくまでこの推進組織のイメージは、エコパートナーくまもとが目指す組織像の1つにしかすぎない。第3次環境総合計画の推進組織を目指さず、可能な範囲でこれまでのような活動を展開してもいいし、両方の役割を担う組織になってもいい。ただ、まず組織を存続するのか、解散するのか決めなくては机上の空論にすぎないのではないか。

○ 第1号議案「エコパートナーくまもとの存否について」

【採決】

エコパートナーくまもとを、

- A 再編し、活動を継続する。
- B 解散する。

⇒出席者33名のうち、A：26名、B：4名で、多数意見であるAに議長委任を希望された47名分を加算し、A：73名、B：4名で、A「組織を再編し、活動を継続する」に決定。

○ 第2号議案「組織再編の方向性について」

※追加資料P3参照

【質疑応答・意見交換】

会 員：市が第3次環境総合計画の推進組織を認定する時期はいつか？またその条件は？

事務局：選定の方法についてはこれからの検討となる。また、認定の際は、公平性、対等性、透明性を確保したうえで認定する必要がある。

【採決】

- A 第3次環境総合計画の推進組織を目指しつつ、会員総意による自由な活動も行う。
- B 第3次環境総合計画とは関係なく、会員の総意による自由な活動を行う。

⇒出席者31名のうち、A：24名、B：0名で、多数意見であるAに議長委任を希望された47名分を加算し、A：71名、B：0名で、A「第3次環境総合計画の推進組織を目指しつつ、会員総意による自由な活動も行う。」に決定。

○ 第3号議案「組織再編に向けた準備会の立ち上げについて」

※追加資料P 4 参照

- ・現役員会が呼びかけて、組織再編に向けた具体的な内容をつめていく準備会を立ち上げる。
- ・構成メンバーは、再編する組織への参加の意思表示に関係なく、広く呼びかける。

⇒賛成多数で承認された。

【質疑応答・意見交換】

会 員：時間がないので、準備会の立ち上げは至急行っていただきたい。

会 員：今回の状況だけでは、先が見えない。後日でいいのでタイムスケジュールを示してほしい。

また、4月から任意団体となって、自分達でやっていかなければならないという認識・自覚が我々に必要だと思う。それが行政と対等となっていく第一歩だと思う。

役 員：現役員会の役割は準備会を立ち上げるまで。準備会には全会員に呼びかけ、どのようなスケジュールでやっていくかも、準備会に集まっていた方で全て決めていただく。準備会の立ち上げまでは責任をもってやるので、呼びかけがあるまでお待ちいただきたい。